病 原 体	供試抗原1)	検査時期及び検査頭数		検査方法 ²⁾	処置
		時期	頭 数		
センダイウイルス	MN	1か月毎	退役動物から10匹を	CF	抗体陽性群・同居群 ³⁾ 全殺
			無作為抽出		
日本脳炎ウイルス		n,	n	HI	n
マイコプラズマ プルモニス		n,	n	菌分離	陽性群・同居群 全殺
緑膿菌		n,	n	菌分離	n
サルモネラ		n,	n	菌分離	n
サルモネラ ティフィムリウム	K-28	n,	n	AGG	抗体陽性群·同居群 全殺
パスツレラ ニューモトロピカ		n,	n	菌分離	陽性群・同居群 全殺
パスツレラ ムルトシダ		n,	n	菌分離	n
ボルデテラ ブロンチセプチカス	64L	n,	n.	AGG	抗体陽性群·同居群 全殺
トレプトコッカス ニューモニエ		n,	n	菌分離	陽性群・同居群 全殺
ストレプトコッカス ズーエピデミカス		n,	n.	菌分離	n
バシラス ピリフォルミス	RT MSK	n,	n	CF ELISA IFA	抗体陽性群・同居群 全殺
アイメリア		n,	n	鏡検	陽性群・同居群 全殺
兎吸吮ヒゼンダニ		n,	n .	鏡検	n
兎ポックスウイルス		11	n.	ELISA IFA	抗体陽性群・同居群 全殺
狂犬病ウイルス ⁽⁾					
兎粘液腫ウイルス/ 兎線維腫ウイルス ⁰					
兎出血病ウイルス4					

- 注 兎の健康状態、異常な点等については全て記録する。死亡した兎については病理組織学的検査等を行う。
 - 1) 供試抗原は、他の適切な株を使用してもよい。
 - 2) 同等な検査方法があればその検査法を採用してもよい。検査方法は、その妥当性が検証され、保証された方法で実施すること。 HI: 赤血球凝集抑制反応 ELISA: 免疫酵素抗体法 IFA: 間接蛍光抗体法 AGG: 凝集反応 CF: 補体結合反応
 - 3) 同居群とは、陽性群と完全に隔離されていない群をいう。
 - 4) 国内で発生がない(又は重要度が低い)ものについては、抗原、試験法及び処置については発生国が実施している方法を重視する。